

愛の募金ボックス

★三愛で愛の募金

神戸百店会
だより

去る二月十日から二月十

ンから選び出す楽しみも企
画され、愛の日にちなんだ

ゼントを受けた男性は誰?

★お菓子の風月堂が、創業七十五周年を迎える記念として一月

★バレンタインデーの
お菓子のお店あれこ

てか、バレンタインデーに女性からの愛の告白続出。

テサ入口で、三愛のかわいい女の子が募金箱を持ちシヨッピングの人々に呼びかけていました。

春の装いはすこがり改め
あなたにペンドント、ブ
ローチいかが?元町の北
村真珠店にはあなたの
お手本としておまかせ

これらの募金は、神戸新聞を通じて患まれない人々のために施設に寄贈され、募金していくたった人々には三愛から昔懐しい变身コマ、すもうコマ、ヨーヨー、や、お花の種など大きななど

型チョコの入ったマイクラ
ブ三〇〇円他、チョコレー
ト詰め合わせがいっぱい。
ユーハイムコンフェクト
は、彼とのラブタイムを約
束するユーコン・ブイ一〇
〇〇円、一二〇〇円。また、

★トキハ
Vネットのストラーダ本店には
○○○○年前後 テーラーの清潔
感漂うブラウス、カッターブラウ
ス一九〇円から二三〇円、
商品、洒落たペストと春のおしゃ
れ着が揃っています。スキヤのド
アを開いて春を買ってみては。

ラブハートボックス五〇〇

ノヨリイチノトコ

★神戸国際会館1Fのベニーモードには、乙女座、射手座など十二星座や、かわいいペットのプロト

ポケットジャーナル

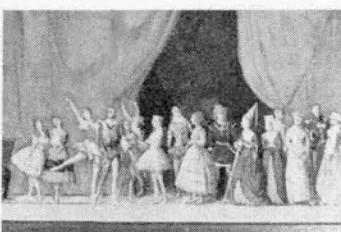


★「文化の殿堂」に どん帳の下絵出来る

文化都市を目指す神戸市はこの七月末の完成を目指して、目下「神戸文化ホール」(中央公会堂)の建設を急いでいるが、この程、その大・中ホールを飾るどん帳の下絵が完成した。

大ホール(定員二千人)中ホール(定員千人)とも二張りで、大ホール用は縦九・五メートル、横二十五メートル、重さ一トンもあり、一方、中ホール用は縦八・四メートル、横十九メートルで、制作費は一張につき一千万円という豪華なものである。

大ホール用としては、一
つは本誌の表紙絵でおなじ
みの小磯良平画伯によるもの
で、四十三名の群像を画面
いっぱいに配し、神戸の
これから文化を担つて行く
ひとりひとりを模したもの
である。(写真、部分)
もう一つは、神戸が誇る



市民ホールに使われるどん帳の一部

「南蛮屏風」(市立南蛮美術館所蔵)から、安土桃山時代の狩野内善が描いた交易図から寺石正作氏(京都芸大講師)が制作したもので、これまた神戸文化の一つの象徴となるだろう。



ロケをする八千草薫と岡田由紀

★NHK連続ドラマに 元町が登場

四月からNHKで新しい連続ドラマが放映される。

茂木草介原作でBK局制作の「けつたいたいな人ひと」が

他方、中ホール用としては、上原茂氏(川島織物美術工芸本部長)の「あじさいと太陽」と、寺石正作氏がどん帳用に制作した「源平合戦屏風」の二種類がある。いずれもこの七月末には一般市民の前におめみえすることになる。神戸つ子は勿論、内外のひとびと

ともに神戸文化の健在さを誇示するものとなることは、ます間違いないと思われる。

★神戸ライオンズクラブ 結成二十周年を迎える

神戸ライオンズクラブ(会長園田正和氏)はこの二月で結成二十周年を迎え、前夜祭として三月十四日

午前九時より広野、小野両

ゴルフコースにて記念ゴルフ大会が行なわれ、賞品も盛りだくさん用意されている。また、三月十五日には国際会館大ホールおよびオリエンタルホテルにて式典と祝宴が催され、アトラクションには、菅原洋一ほかが出演する。

★NHK連続ドラマに 元町が登場

四月からNHKで新しい連続ドラマが放映される。

茂木草介原作でBK局制作の「けつたいたいな人ひと」が

他方、中ホール用としては、上原茂氏(川島織物美術工芸本部長)の「あじさいと太陽」と、寺石正作氏がどん帳用に制作した「源平合戦屏風」の二種類がある。いずれもこの七月末には一般市民の前におめみえすることになる。神戸つ子は勿論、内外のひとびと

誕生日
ありがとう
運動



★ちえおくれと社会

(ちえおくれの)子どもが社会に適応していくというだけではなくて、社会が子どもを受け入れるといふことが大切である。社会といふものは、勤かれないものではありません。変わつてゆくものであります。その発展の中味として、いろいろな人が十分にりっぱに生きてゆけるよう社会が形成するといふ役割が、社会自身の中にあります。われわれは社会人として、そういうことを本気で考へていかなければならぬのです。その発展の中味として、いろいろな人が十分にりっぱに生きてゆけるよう社会が形成するといふ役割が、社会自身の中にあります。われわれは社会人として、そういうことを本気で考へていかなければならぬのです。それが堅定にあげて、生きてゆけるよう社会が形成するといふ役割が、社会自身の中にあります。われわれは社会人として、そういうことを本気で考へていかなければならぬのです。それは反復せねばならないことだと思います。(本運動「共に育つ」)

右は「精薄児の父」故余賀一雄氏の講演の一節です。この人たちと共に歩む社会である。この人たちのようにならなければ、専門家や一般市民の私たちはボランティアやみんなが一緒に考えて行動してゆきたい、と思います。

★誕生日ありがとう運動とは誕生日のお祝いの中から意識的

に百円節約献金で、各家庭で、この問題について話し合う機会をもつ。このことを手がかりとして、わたしたちすべてが精神薄弱(者)をあたたかく包む愛団りを広げると同時に、ひとりひとりのかけがえのない生命について思いをめぐらせ、年に一度の誕生日を有意義にしよう、という運動です。

誕生日ありがとう運動本部
神戸市芦合区御幸通八の九の二
戸国際会館一階(郵便局の前)
(二五二)八一六一内線316

から六年生まで十五名の子供が練習に励んでいます。

私どもは、この蛭子太鼓が單に私どもの神社だけのものではなくて、神戸の新しい郷土芸能として定着してくれればいいと、そればかりを願つておるのであります。

今年の神戸まつりでは二十日の本まつりに参加、神戸市民はじめエトランゼ諸氏にも神戸に蛭子太鼓ありといふことをせひ知つて貰うのだといふ意気込みには熱っぽいものが感じられる。

舞台では樽太鼓が終り、胴太鼓の連打が始つた。新しい神戸の郷土芸能がまさに生まれでんとする、そ

の息吹きが充分に感じられる響きであった。

★フラメンコに情熱を燃やす向田さん

——こう主張するのはギタリストの向田俊博さん。

「今までのフラメンコと

いうと単なる踊りの伴奏だとしか考えられていないからたんですね。派手な踊りの

蔭でそれに合わせた音を出

しておればよかつた。日本

ではフラメンコといふとそ

ういうイメージしかないで

すね。それじゃ駄目なんですよ。クラシックギターと

同じよううにフラメンコギターの音楽そのものを知つて貰いたいと思うのですよ。」

中心にした、神戸まつり

パレード、第四突堤など

で行われる港のパレード

と華やかな祭りが予想さ

れるほかに、六甲ファミ

リまつり、湊川はつび祭一色につつまれる。

また、芸術広場や青年

広場、友情の広場が賑やかに話題をあつめるだろ

う。祭の要項がきまれば祭りに参加する人たちも

その準備に心せわしくな

る。例年どおり、旧居留

地、フラン・ロードを



「神戸まつり」がやつてくる

第三回目の「神戸まつり」は5月19日20日の両日にわたつて実施されることが決定した。

タイトルは花と海と太陽の祭典といふことであります。例年どおり、旧居留地、フラン・ロードを

午後二時から県民小劇場で

△スプリング・イン・ギターノン(Ｋ・Ｆ・Ａ)の事務局が、

辺通五丁目二ノ神戸商店貿易セ

ンタービル(七F)七二四号室

六五一〇〇七八一五一〇一三三(会長川上勉)に開設。

主催はリンコン・フラメンコ。これはフラメンコの

ムブラン、マラゲニヤなど

で入場料は八百円。

午後二時から県民小劇場で

△スプリング・イン・ギターノン(Ｋ・Ｆ・Ａ)の事務局が、

辺通五丁目二ノ神戸商店貿易セ

ンタービル(七F)七二四号室

六五一〇〇七八一五一〇一三三(会長川上勉)に開設。

主催はリンコン・フラメンコ。これはフラメンコの

ムブラン、マラゲニヤなど

で入場料は八百円。

午後二時から県民小劇場で

△スプリング・イン・ギターノン(Ｋ・Ｆ・Ａ)の事務局が、

辺通五丁目二ノ神戸商店貿易セ

ンタービル(七F)七二四号室

六五一〇〇七八一五一〇一三三(会長川上勉)に開設。

主催はリンコン・フラメンコ。これはフラメンコの

ムブラン、マラゲニヤなど

(Y)

ゆったりと落ち着いたスペースで
新しい“味”をご賞味ください。



鮨の又 幸

神戸三宮生田ノ社ノ西
電話・三の宮 (331) 0935

元祖



おいしさが
口いっぱいに
ひろがる……
本場の味



- 三宮センター街柳筋店
TEL 321-3446・331-0572
- 新開地店
TEL 576-1191
- 平野店 (平野市場内)
TEL 361-0821
- 三宮センター街サンプラザビルB₁
TEL 391-3793

オリジナル L サイズ

草履新発売

創業明治二十一年

履物の山下

古い老舗に新しいセンス

確実正札 完全冷暖房

静かに品選びの出来る店

神戸三宮センター街 TEL(391)0256



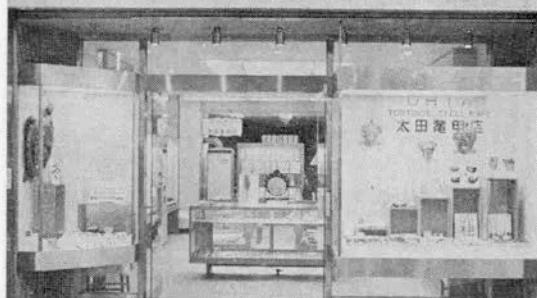
ハイセンスの紳士服で最高のおしゃれを！

三恵洋服店

元町4丁目 TEL(341)7290

SPRING KOBE SHOPPING

太田鼈甲店



べっ甲美術品とアクセサリーの専門店

太田鼈甲店

元町1丁目 TEL(331)6195



Mr. Kent
came to Kobe
流行に左右されない
本来のオシャレ
それがKentです
シックな
スコッチ風の店舗
それがFunakiyaです

Kent shop

フナキヤ

元町3 TEL(321)0356



ご入学 ご卒園の

お祝いは学習シリーズ
その他数多くの商品の
中からお選びください

おもちゃの



三宮方面でのお買物は……

さんちか店 ファミリー タウン 391-4045

三宮店 センター 街 山側 331-4969

元町方面でのお買物は……

元町店 元町通 3 丁目 山側 331-0090

バンブウ店 元町通 1 丁目 不二家前 391-0768

おすし
てんぶら



禁
浦



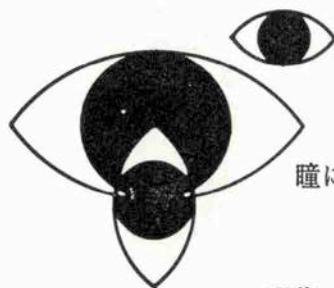
本店

大丸前・三宮神社東
TEL (331) 5577233

TEL (331) 5677333
(毎週水曜日休み)
さんちか味のれん街
332333
元町休み

営業時間
A.M.11.30~P.M.9.00

SPRING KOBE SHOPPING



瞳に美しさを保つ

スポーツに

美容に

現代の科学が生んだ

コンタクトレンズ

日本コンタクトレンズ協会会員
国際コンタクトレンズ研究所

神戸市葺合区御幸通八丁目九ノ一（三宮駅前）
神戸国際会館内 TEL (251) 8161 • (231) 2570

やつぱりうまい
むさしのとんかつ

でんわ
321 321 331
—〇—〇—
六三七一
六三四五
コーベ三宮
サシ



異人館物語 〈8〉

ジエームス山哀歌

小山牧子

「ガッデム（畜生）！ガッデムSCAP（連合軍）！」

ジエームスの唇から、英國紳士らしからぬ下品な罵り声が、きりもなく吐きされてられる。

動物園のオリにぼうり込まれた熊公かなにかのようないらだち、部屋の中を目的もなく大きな歩幅で歩きまわるジエームスの様子に、長年つれそつた老妻もさすがにおろおろした。

「ダーリン、きょうもやはり……」

日本が無条件降伏をしてから一ヵ月がたった一九四六年（昭和二十年）の九月、すでに底冷えのするカナダのジエームス邸の庭では、楓の葉が美しく紅葉していた。が、ジエームス夫妻の表情は、その明るく彩色された自然の色とは不似合に暗い。

「ガッデム！マッカーサーのクレイジィめ！」

「どういう意味でございます？」

「意味だつて？」

ジエームスは痙攣発作におそわれたかと見まがうヒス

テリックな高い笑声をたてた。

「意味もなにも、子供でもファースト・トーグで納得できる理屈を司令部の連中は、ガンとして聞こうとしない

あらすじ 年のころ五十歳を少しすぎたと思われる初老の女が塙屋の高台をゆっくり降りていく。彼女、中井ふさは二十歳そこそで郷里の潮岬村を出、英國系カナダ人E・W・ジエームスの雇人となり、五年前ジエームスが逝くまで彼の寵愛を受ける。彼にちなんで名づけられたジエームス山の腹から塙屋の海を眺めながら、彼女はジエームスとの過ぎし日の出来事に思いをはせていく。

明治時代といえど多くの異国人が神戸に移り住み、西欧文明を背にして活躍した頃だが、E・W・ジエームスも数少ない相場師の一人で、兵器売込みでもうけた金で塙屋の不動産に目をつけはじめていた。そして塙屋のジエームス山はしだいに大規模で自然と調和した外国人居住区にできあがつていった。そしてジエームスの雇用人の中に、ジエームスからひときわかわいがられた中井ふさの姿があった。ふさは第二次大戦で国外追放となつたジエームスの代りに彼の残した財産を守りぬく決意を固めた。しかし戦争が激化するにつれて彼女は同胞の敵意にかこまれ、深い坐折感を味わわねばならなかつた。

んだ

足を止めた彼は、気落ちのした表情で夫を見守る妻の前に立ちはだかり、そのやつれが感じられる骨だつた肩に手をかけてゆすつた。

「いいかファニー、聞いてくれ。日本への入国許可証を受けるのに、司令部の奴等は、きょう私に突然、こんなことを言いだしたのだ。『司令部では、現在のところ日本に住居を持っている人にだけ入国許可証を与えていま



H. SAKA

は、悲しげにふるえを帶びていた。
「ソリイ・ベリ・ソリイ、あなたに
こんな話をしても仕方のないことだ
った……」

ジエームスは、最近、妻の健康状
態がかんばしくないことを知つてい
る。温雅な風土の日本で長く暮ら
てきた老妻に、ここ数年のカナダの
酷しい冬が身にこたえたのだろう。
「いいえ、アーネスト。私、なんと
か、あなたの助けになりたいといつ
も思つてゐるの。以前の若かつた時
のように……」

けなげな妻の言葉に、不遇をかこ
る。そして、彼は、妻の顔を感慨をこめて見つめた。

そうだった。この妻は、いつの時も、夫の事業をねば
り強く支えてくれていた。夫であるジエームスが、一個
の欲望機関車となつて、日本経済界をあちこちに搔き傷
を作りながら駆進していいた時、内に争戦な闘争心を秘め
ながら、表面はあくまでも貞淑でつましい金髪の女の
笑顔が、どれほどジエームスという企業家のイメージを
やわらげるのに役立つたとか。

その妻も、いまは老い縮んだ。ジエームスの脳裏を、
この妻と共に乗り越えてきたけわしい山道にも似た苦し
みの時代と、あの塩屋の邸宅に落ちついてからの静かな
安らぎに満ちた日々の記憶がよぎり過ぎた。

やがて、心がなごんだジエームスは、窓辺に立つた。
居間には、すでに暖があかあかと燃え、戸外の紅葉し
た楓の木の上にある空は、冬の色である。厚い灰色の雲
から、水雨に似た大粒の雨が、刃のように窓ガラスに斬
りかかる。

「まだ荒い息遣いがおさまらぬ夫の顔を見上げる妻の声

——またカナダの冬がくる——と。

国土のほとんどが凍土におおわれ、川も湖も氷の下で息をひそめる酷しい殺伐としたカナダの冬が——。

同じ冬でもジェームスの館がある、塩屋の冬はなんと暖かく、うるおいにみちていることか。木々の葉は冬の日ざしの中でもきらきらと輝き、いまごろはたぶん、紫の果肉が甘ずっぱいアケビの実が熟するころだ。

「帰りたいですわねえ、アーネスト。早く日本へ……」窓辺に立つ夫に、ひつそりとよりそう妻の唇から、ふとそんな言葉がもれる。二人にとって、日本はすでに帰るべき故郷になっていたのだ。

——帰れるとも。必ず今年中に、あのなつかしい日本の土を踏んでみせる。帰る。必ず日本へ帰る！——

そう心に言い聞かせるジェームスの目に、再び怒りとは質を異にするアナチックな光が然えはじめた。

「そうだ、ファニー、帰るのだ、いますぐ！」

振りかえって妻を見るジェームスの顔がぱつと明るんだ。

「でも許可が……」

「なんとかなるさ。許可などなくとも、行つてしまえば占領軍の司令部だって承認せざるまじて……」

行動派のジェームスのことである。そう決意すると急速、渡航準備。妻を連れて極東むけの船に乗り込んでしまった。

が、その種の強引さが成功するのは、運命がその男にむかって微笑みかけている若い頃のほんの一時期ではないだろうか。

連合国が、自国の国運をかけた大戦の間、軍需産業から手をひき、自分の財産の安否だけを気づかしながら隠棲して過ごしたジェームスは、資産家ではあるにしろ企業家としては忘れられた存在である。そして、彼の名を記憶している軍の要人は、戦争に協力しなかつた守銭奴として、ジェームスに批判的であった。

だから、日本の近くへやってきたからといって、おい

それと入国許可を与えるほど甘くはない。

夫妻は、当時まだ国際都市であった上海にたどり着いたところで足止めをくつた。そこからは、一步も日本へ近づくことを許されない。上海のホテルに宿泊したままジェームス得意の策をほどこす術もなく、焦燥にみちた虚しい日が流れた。

そして、その年、暮れもおしまつてから、日本で暖かいクリスマスをとの願いがかなわぬままに、すごすごとカナダに戻つてゆかねばならなかつた。

忘れられたといつても、さすが往年の名士、O·B·E (英帝国勳章授章者) E·W·ジェームス氏、失意の内に帰国の報は、カナダの報道陣に関心をもたせ、帰国早々にインタビューがなされたのであるが、その席上、彼は、日頃の忿懣のすべてをたたつけた。

「司令部の政策は、非常に公平を欠いていると私は思う。現在、日本への入国許可が与えられている成上り者と、そうでない私との間には、納得のできる生活条件の違いなど一つもない。私に入国許可を与えない理由は、まったくもつて司令部の都合に過ぎん。彼等、許可が与えられた連中と私との違いは端的にいうならば、彼等がマッカーサーのお気に入りで、常に元帥のとりまきとして互いにうるおしあつてゐるということだけだらう。そして、私はそのことをオフィシャルリストの道に反することであるとの堅い信念をもつて生きてきた男である。」

この司令部とその頂点にあるマッカーサー元帥への猛烈な批判の言葉は、活字となつて世に流され、当然、それは司令部の情報機関の目に止まり、元帥へと報告されたのである。

勿論、元帥は烈火のごとく怒つた。で、規則をたてまえとしたそれまでの司令部の政策は、ことE·W·ジェームスに対しては、マッカーサー元帥とその側近の個人的憎しみに変つてしまい、入国許可是、当分の間、絶望的なものになつた。

□新しい関西を創造する総合雑誌

オール関西

〈3月号予告〉

☆グラビア「女の四季」①

大原ますみ

☆「シルクロードの国々」小山 保

☆「This is NARA」

☆「And His Ladies」㉕ 中西 勝

☆「私の散歩道」

池坊保子、滝川勝二、藤沢恒夫

☆連載対談㉓ 陳舜臣、筒井康隆

関西の文学土壤

☆七周年特別企画

座談会「関西の復権を目指して」

奈良本辰也、木村重信、水谷顕介、久我三郎

☆オセアニア紀行② 木崎国嘉

☆激動のアラブを行く④ 林 龍比古

☆商売の最前線「鼓月」

☆「織田作之助伝」⑬ 大谷晃一

☆新連載「播州歴史散歩」黒部 亨

☆新連載「競馬醉狂伝」 新橋遊吉

問ジエームスがいわゆる成り上り者と批判した連中は、物資欠乏の極にある戦後の日本を活躍の場として、貿易の甘い汁を存分に吸いあげていたのである。

一九四八年（昭和二十二）の末、更にさまざまに手をつくしたという以上に司令部の占領政策の変更によつて、ついにジエームスにも待望の入国が許れる時がきた。なつかしい日本！そこに残してきた経済アニマル・ジエームスの分身たち！土地は？多くの異人館は？が、帰りついた日本で老事業家を待っていたものは、冷酷な現実だった。経済界は、すでに完全に新旧勢力の交代がなされたあとで、貿易の面ではジエームスが利権に加わる余地はない。六十戸に近い館は占領事に接收され、そうでない館には一例のアメリカから、倉庫の下積みになつて腐りかけている食料をただ同然で買いたいて、運び、日本の飢えた国民に売つけて、ほとんど丸儲けに近い利益を独占している外国商人の住居になつていて、家賃は、一戸が五〇〇円たらずで統制されている。その安い家賃に引きかえ、当時、日本の米価は、なんと一升につき一百三十円ほどもした。

カナダにあって夢にまで見たジエームス邸は、米軍の将校クラブになり、彼自慢の美しい芝生の真中には、不

粹なバラック建てのダンスホールが建ちはだかつている。山の木の方は、窮屈生活を強いられている近辺の日本人が伐り倒して燃料にしてしまい、山は丸裸である。予測はしていたものの、塩屋に着いたジエームスは、かつての自分の王国が手のほどこしようもなく荒廃しているさまを見て、しばし茫然とした。が、老いたりとはいえ、アメリカ大陸に白人の国を築いたアングロ・サクソンの末裔ジエームスである。祖先から受け継いだ開拓者魂は、すぐむくむくと頭をもたげた。

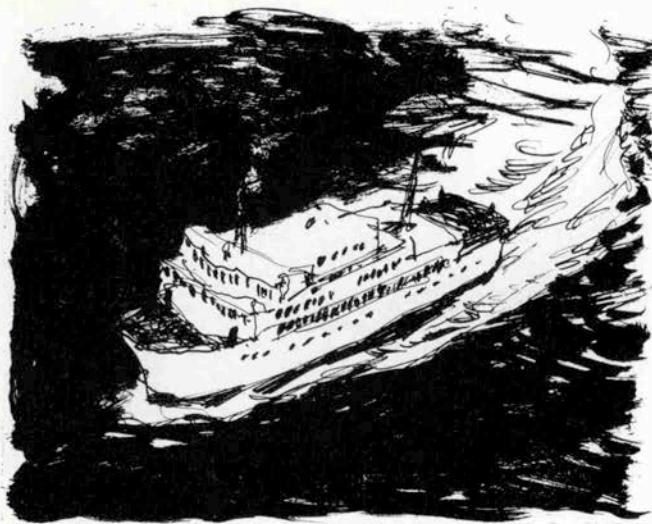
「ガットム、度しがたい貧乏人ども。戦争は、まず、彼等、貧民を律する秩序を失わしめたらしい。だが、見ていろ。私が帰ってきた以上、もはや日本の貧民やアメリカG.I.に私の持物から自由に盗ませはしない」

翌日からジエームスの大車輪の活躍がはじまつた。司令部との財産の返還交渉、山をもとの状態に戻すための資金集め、土木、建設会社との交渉、等々戦後三年たらずの日本では、どの一つの仕事をとつてみてもスムーズに事が運びそうなものは一つもない。

(つづく)

曲線ハイウェイ

武田繁太郎
え・横
塚繁



あらすじ ★ 東名高速 浜名湖サービスエリアで、多木洋介は若い神戸の女性宇津康子と知合い、幾度か連絡を重ねた。康子の魅力にひかれた多木は、正体を知るため、神戸出身の友人岡本和彦と共に東名神を通り、神戸へ来た。康子を見出せぬ多木は、彼女の面影に似た辰野英子を紹介され、六甲山をドライブに出かけた。ロマンティックな情景に誘われて英子を抱きしめた多木の胸に、始めて感じるいとしさがつのつた。その夜須磨のホテルで二人は愛をたしかめあつた。そしてさりげなく二人は別れた。

そしてある日突如として現われた康子からの電話で、レストランで会った多木は、その足でTホテルに向い二人の愛を確かめ合つた。その翌朝、風のように行つて辰野英子を追い神戸に来た筈の多木は、友人岡本の早呑み込みと、神戸の雰囲気のなかで辰野英子を捜している自分に気付いた。そして、数軒の店をめぐり歩いた後、英子をみつけた。

そこで約束どおり、二人は淡路島へのドライブに出た。西海岸をめぐつてから、二人は洲本の海岸近くのホテルに憩つた。神戸に戻つたのはもう夜だった。エキゾチックなムードを楽しみ食事を終え、薄暗い街で多木は中年の男と寄りそつて歩いている宇津康子を目撃した。その衝撃を負つて帰京した多木の元に、宇津康子からの届かない電話が入つた。十日間も一人で過ごせることになると、多木は北海道へのドライブを決めた。彼等の乗り込んだフェリーは夕刻静かに岸壁を離れていった。

眼下の岩壁に、一人の若い女性がたって、船から投げられた赤いテープを握っていた。「フェリーでも、ああして別れを惜しむものがいるんだな」「そりや、遠い北海道へいくんですもの。明石から、目のまえの淡路へわたると、わけがちがうわ」

康子も、岩壁の若い女をみおろしながら言った。

テープをなげているのはどんな船客だろうかと、多木は、デッキから身を乗りだすようにしてうかがつたが、多木のたつている場所からはみえなかつた。

たぶん、若い男だろうと、多木は、勝手に想像した。二人は恋人同士で、男が遠いさいはての土地へ旅だつていくのを、女がいつまでも別れを惜しんで見送つているなんとなく、メロドラマの一コマのような想像だと、多木は、自分で苦笑しだした。

だが、多木にそんな想像を抱かせるほど、出航風景には、あわただしさのなかにも、一抹の哀愁のようなもののが漂つてゐる。それは、旅の愁いに通ずるものがあつたしれとこ丸は、暮れなすんでいく東京湾の沖めざして徐々に動きだしていた。いつのまにかテープも切れ、岩壁にたつていていた若い女の姿も、夕闇のなかに消えていた。

船はしだいにスピードをあげていたが、一万トンにちかい巨体なので、まったく船の揺れを感じさせない。ただ間断ないエンジンのひびきがきこえてくるだけである快適な船旅がたのしめそうであつた。

「タめしにしようか」

多木は言つて、二人は船内にはいった。

食堂は、上下のデッキに二カ所あつた。上の食堂は、街のレストラン並みで、だす料理もよく吟味されていた食堂のとなりは、バーとダンスホールになつていて。

二人は、食堂で夕食をすませ、いつたん船室に戻つてから、八時ごろ、また上のバーへ顔をだしてみた。十人あまり腰かけられる止り木は、ほとんどいっぽいで、二人は、やつと隅の止り木に席を占めることができ

た。ホールにはバンドがはいり、もう大勢の客たちが踊つていて。若い男女は、みんなゴーゴーだった。

二人は、水割りを呑んだ。船で呑む酒はやすい。それ酒がいかに高いものか、多木は、あらためて思い知らされたような感じだつた。

「踊ろうか」

醉つてきたところで、多木は、康子の腕をとつて、ホールにはいった。

二人は、かるくゴーゴーのステップを踏みあつた。康子の長い栗色の髪が、七彩のライトをあびて、半ば顔をかくすように、きらきらと輝きながら波うつていく。多木のステップも、興に乗つてきた。

ホールの壁ぎわには椅子がならべられてあつて、ここでも、客たちは酒を呑みながら、踊りの群れをながめている。ホールは人いきれでむんむんするほどだつた。

船窓からは、遠くに陸の灯がまたたいてみえた。どうやら、横浜の街の灯らしく、その右手のむこうに、川崎のコンビナートの火が、えんえんと夜空をこがして、出航して、もう三時間ちかくたつていて。多木は、船は東京湾をでたあたりかと思つてたのだが、さすがに船旅はのんびりしたものだつた。

十一時すぎ、ホールをでて、甲板にでてみた。船はようやく内房をとおつて、外海にてたらしい。波で、船体がわざわざ揺れていた。風がかなりきつい。二人は、そのまま、船室に引揚げた。

陸の十一時なら、まだ宵の口だが、狭い船の部屋ではもうベッドにはいるよりほかはない。

「もうすこし夜をたのしめる設備がほしいわね」遊び好きの康子は、ちょっと不満そうに言つた。

「うむ。ヨーロッパあたりのフェリーなら、お客様を退屈させないよう、デラックスな設備があるんだろうが、日本のフェリーはまだまだだな。ようやく大型の長距離フェリー時代がはじまつたばかりなんだ。いまのところ

は、お客様とクルマを選ぶのに精いっぱいというところなんだろう」

多木は、狭い船室をみまわして言った。こういう個室

も、一般的の客船にくらべたら、まだ貧弱なものだった。

二人は、寝る支度にかかった。

「でも、やっぱり、はじめてのフェリーの旅で、疲れた

彼の気持ちを昂ぶらせていたのかも知れない。多木は、三度も、康子にもとめた。

「どうしたの？ 今夜のあなた」

多木の愛撫にこたえて、全身を溶かしていた。

今夜、別れて眠ることには、二人とも、それほど満足はなかつた。二人は、寝る支度をととのえると、どちらからともなく抱きあい、キスをしただけで、それぞれのベッドにはいった。

翌朝、二人は、九時ごろ目ざめた。

「眠れたかい？」

「ええ。ぐっすり。エンジンの音も気にならなかつたわ。お酒のおかげかしら」

康子は気嫌のいい顔で言つた。

それとこ丸は、太平洋上を一路北上していた。午後、船内放送が、金華山沖から陸中海岸を通過中だと知らせた。

二人は、甲板にててみた。船は陸から五、六キロほど沖を航行していた。この陸中海岸は、海岸線が複雑にいりくんでいて、いわゆるリアス式の海岸として有名である。あいかわらず風はきついが、空はよく晴れていて、さすがに美しい眺めだった。

「すてきね。この航路のハイライトね」

「うむ。ぼくは以前に、あの海岸の道をクルマで走つたことがある。陸からの海の眺めもよかつたが、海から陸をながめるのも、またちがつたよさがあるな」

二人は、見物の乗客たちに混つて、ゆっくりとうつろ

つっていく海岸の変化に富んだ風景をみほれていた。苦小牧港の沖合に碇泊した。ここで一夜をあかし、早朝六時ごろ、フェリーの発着場に横づけされた。

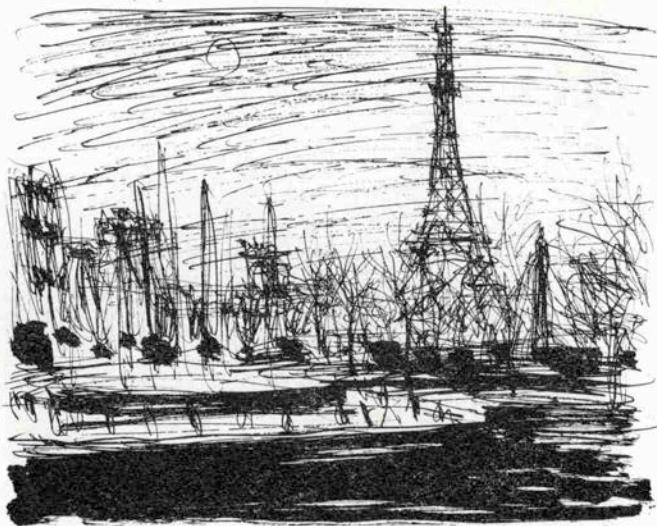
港には、まだ朝靄がたちこめていた。薄紫色のその靄のむこうに、広漠たる北海道の原野がひろがつているようであった。

みたいね」

「じゃ、今夜は、ゆっくり眠るんだな」

二人は、昨夜、赤坂のTホーテルで、しばらくぶりに陸みあつていた。

昨夜は、多木は、いつになく、異常なほど燃えた。神戸での外人の姿をみつけられたことが、かえつて、



「こうして船のうえからながめているだけでも、内地の

景色とはスケールがちがうわね」

康子には、はじめて目にするさいはての地であった。

下船開始で、二人を乗せたマークVは、それとこ丸に

別れを告げると、港の構内をでて、またクルマのかけも

まばらな国道三十六号線を、札幌めざして北上していく

た。

頭上を、ジェット旅客機が海のほうから、高度をさげながら追い抜いていく。千歳空港をめざしているのだ。

ここは、東京・札幌間の空路にあたつていた。

千歳の街から、高速道路にはいった。この沿線にもま

た、ひろびろとした原野がひろがっていた。

「すてきね。いかにも北海道にやつてきたつて感じだわ」

康子は、車窓を流れていく風景に目をうばわれていた。森や林のまをねつて、北海道特有の、赤や青の原色に彩られた、とがった三角屋根の群れが、点々とちらばつていた。内地の人家のくすんだ黒い屋根をみなれた康子の目には、ひどく開放的で、明るい光景にみえたのであ

る。

札幌市内には、苦小牧から一時間半ほどで着いた。多木は、予約しておいた中島公園のそばのPホテルに、ま

つすぐクルマを乗り入れた。

今日は、一日札幌でのんびりすごし、明日の朝、多木

の言う「秘境」の村にでかけるつもりであった。

二人は、Pホテルで朝食をすませ、ひと休みすると、さっそく、市内見物でかけた。多木は、去年の夏休みに、P大の仲間たちと北海道をまわっていたので、札幌の地理は、いちおう頭のなかにあった。

エルムのそびえる北大の広大な構内。札幌オリンピックの行われた大倉山シャンツエ。スケート競技の行われた真駒内など、康子には、みるものすべてが珍しかったが、札幌はさいきん「リトル・トウキョウ」などと呼ばれていた。駅前の大通り、その下の地下街、あるいは、バー・クラブの密集しているスキノなど、市の中心街は、東京などとほとんどかわらなかつた。それだけ、北海道の街らしい特色が失われてきたように、多木には感じられるのである。

(つづく)

神戸の催し物 3月ご案内

<音楽>

★ アート・ブレーキとジャズメッセンジャーズ

3月5日(月) PM6:30~PM9:00 神戸国際会館
入場料 S¥1,900 A¥1,500 B¥1,000

★ フランク・ブルセル、グラン・ドーケストラ

3月12日(月) PM6:30~PM8:30 神戸国際会館
民音、会員制 A¥2,000 B¥1,500

★ ピリー・バンバン

3月22日(木) PM6:30~PM9:00 神戸国際会館
神戸労音 会員制

★ フレッシュ・フォーカンコンサート

赤い鳥+五輪 真弓

3月26日(月) PM6:30~PM9:00 神戸国際会館
神戸文連 入場料 A¥1,500 B¥1,300

<演劇>

★ 早春の賦

3月13,14,16日 毎夕 PM6:15~PM9:30
神戸国際会館

神戸労演 会員制 ¥800

劇団新入会公演 作/津上 忠

演出/八田 満穂

出演/鈴木 瑞穂(客演劇団鶴) 井上昭文、前田昌明、長山藍子、他劇団新入会

<奇術>

★ 印度大魔術団ショウ

3月24日(土) PM1:00 神戸国際会館

神戸ライオンズ20周年記念協賛行事

入場料 A¥1,500 B¥1,000 C¥500

<その他>

★ ホリディ・オン・アイス

3月7日~11日 神戸中央体育館

7,8日 PM6:00 9,10日①PM2:00②PM6:00

11日 ①AM10:00 ②PM1:00 ③PM4:00 開演
入場料 S¥2,200 A¥1,800 B¥1,400 C¥1,000



全館指定席

HOLIDAY ON ICE

8年振り待望の

神戸公演!!



★三年前、大分から東大阪市へ働きに来た者ですが、神戸が好きで、神戸っ子ですが、神戸と購読がある。神戸は北野町には個人館がある。神戸の春、九州にあります。が、今年の春、九州にあります。が、神戸というまちは僕の好きなまちに忘れる出来ないでしまった

神戸を愛するひとの中に灯を照らしているに違いありません。神戸っ子を今後も一層元実して下さい。神戸っ子は神戸努力の集まりだと思います。神戸をいつまでも愛しております。

△東大阪市 高橋秀樹

発行にいろいろお世話をいたいたい方がた

の乙女が私です。でも情熱は捨てません。熱情も拾います。いつの日いか、誰か相手を選ばれ。神戸のまちでネクタイを選んであげる人が来るかも知りません。そうしたら、こんなお便りを出したことを忘れて第二次ペピーブームに勝手なことをしゃべって御免なさい。頑張って下さい。

△神戸市 まり子

★港の夜景を見ながらも神戸の街を思い出しません。今、大好きな神戸の街の香り一一杯の「神戸っ子」を読むことが出来とても幸せです。これからもハイセンスで漂う「神戸っ子」を期待しています。

△東灘区 杏子

的な「神戸っ子」です。でも、パンダは好きです。神戸も愛しています。別れたひとと神戸があった……。このひとたは大好きです。

別れた人の顔もおぼろげになったまちを歩く遠隔後半を迎えた23才の乙女が私です。

でも情熱は捨てません。熱情も拾います。

まちを歩く遠隔後半を迎えた23才の乙女が私です。

でも情熱は捨てません。熱情も拾います。

別れた人の顔もおぼろげになったまちを歩く遠隔後半を迎えた23才の乙女が私です。

でも情熱は捨てません。熱情も拾います。

後編集



★三月号で「神戸っ子」も十二周年を迎えました。本誌の顔である表紙のパレリーナです。小磯良平先生の油彩のパレリーナです。

アーチャン都市に、いろいろ動きが活発化してきました。十二周年を記念してのトップセミナーも、その胎動が発端になれば、文化を育て、産業を育てるでしょうが、神戸っ子の貢献はない

★神戸っ子十二周年記念のブルーメカル賞の四人が決定しました。ローラー車の地に地についた活躍なこれが、私も頗る嬉しいと思います。

★新カラーアート企画「神戸のティアマツン」で、石阪幸生先生、鶴尾カラマツンと北野町をある。どんどん壊壊されると異人館へガクリ、「今」のうちに撮る。とかなアカンでエ!

★お待たせしました「世界の福祉施設

設した。いよいよ出版の運びとなりました。

少しでも多くの人に読んで貰いたいと思います。

大正ロマンが昭和の現代に恩恵とともに染み込んでくる。そして愛さるこれ如何? 竹久夢二と神戸に随

がどうございました。△古玉和子

が、ふんわりあたかな日射しを受け

て、背中はボカボカ。頭の中までフワフワなのです。こんなお気が

よつと縮くと、もうだめです。書きかけの原稿用紙の上にエンビツ投げ

端になれば、文化を育て、産業を育てるでしょうが、神戸っ子は知らない

ふさわしい文化を育て、産業を育てるでしょうか。神戸っ子は知らない

だけの原稿用紙の上にエンビツ投げ

端になれば、文化を育て、産業を育てるのです。お散歩がしなくなつてしまふのです。△遊園地の噴水は、しぶきがキラキラしていました。

△小泉 美喜子

★知らぬ間に過ぎゆくものが時なら

ば、慣てたまきを恵みを貰う。そんな

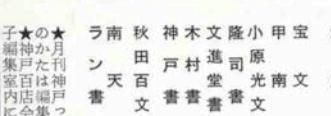
ある日、淡路に海を博すを訪ね

感じること多く、ふと、

△たけし

★諏訪山神社へ向かう石段を化した西洋館が

行くと左側に廻屋と化した西洋館が



神戸っ子ごあんない

